

# 鹿児島水産高校生が コンカツ料理でグランプリに輝く



カツオdeがね? 茶飯どんぶり  
～3種のソース添え～

## 料理のエピソード

●料理はだれのために作りましたか? また、どんな気持ち・メッセージがこめられていますか?

私たちの家族は、水産業や農業の仕事に携わっています。そして、レシピを考案するために必要な材料を提供してくれたり、アドバイスをくれたりと、色々協力してもらっています。今回は、昔から食べ親しんでいるがねをアレンジし、地元の食材のおいしさをたっぷり味わって心と体を満たしてもらえよう、いつも仕事を頑張っている家族に感謝の気持ちを込めて作りました。



①グランプリを獲得した鹿児島水産高校の生徒(左から依積田百音さん、松田佳樹さん、板敷龍暉さん、今給黎涼さん、新原清佳さん) ②エピソード審査で料理に込めた想いを発表 ③表彰式の様子

鹿児島水産高校食品工学科の2年生5名(板敷龍暉さん、今給黎涼さん、松田佳樹さん、依積田百音さん、新原清佳さん)で編成する「食品工学科コンカツ隊」が開発した「カツオdeがね? 茶飯どんぶり」3種のソース添え」が、「第6回オレンジページ味の素KK『ジュニア料理選手権』」の団体部門でグランプリに輝きました。

今回は「大切な人」を思いながら、心をこめて作る料理」をテーマに、全国の中学・高校から団体・個人部門7名、団体部門6組が1次審査(レシピ審査)を通過し、10月22日にオレンジページ本社(東京)で、2次審査(調理審査、エピソード審査)が行われました。そして、11月12日、東京ドームシティプリズムホールでウェブ投票と合わせた結果が発表され、同校のグランプリが決定しました。

昨年度、先輩たちが準グランプリを獲得した作品を引き継ぎ、それをベースに新たなコンカツグールの開発に取り組んできた5名、蘭田里香助教諭のアドバイスを受けながら、いくつものレシピを考え、盛り付けにもこだわった試作を繰り返してきました。また、調理面だけではなく、2次審査で水産高校らしさを演出するためのパフォーミングスカと、想いを伝えるためのプレゼンテーション力

の強化にも取り組みました。

「カツオdeがね? 茶飯どんぶり」3種のソース添え」は、メインのがねには本市特産品のカツオと友好都市稚内市の特産品のじやがいもを使用。枕崎茶で炊いたご飯の上にながねを乗せて、カツオの漬けをトッピング。味を変えて楽しめるように3種のソースが添えられています。3つの味を楽しんだ後のシメは、鯉節と昆布の合わせ出汁をかけて、やさしい味の出汗茶漬けに。地元食材を生かした4つの味を楽しめるこの料理には、いつも仕事を頑張る家族への感謝の気持ちも込められています。

リーダーの板敷さんは「結果発表の時は不安しかありませんでしたが、名前を呼ばれたときはまずホッとして、うれしさがこみ上げてきました。いつも自分たちのためにアドバイスなどをしてくれた家族には、感謝の気持ちでいっぱい。受賞した時の気持ちを忘れずに、次の大会につなげていきたいです」と話していました。

11月24日には、保護者への試食会も行われ、生徒たちが感謝の気持ちを込めて作った料理を保護者たちは笑顔で味わっていました。

グランプリを獲得した料理は、オレンジページ1月2日号(12月16日頃発売)とオレンジページnetで紹介される予定です。また、料理のレシピは同校ホームページで紹介されています。

You(あなた)とI(私)が互いに支え合い、尊重しながらともに歩んでいける社会をめざすため、男女共同参画について考えるコーナーです。

■問合せ 企画調整課政策推進係 TEL72-1111(内線219)

■女性に対する暴力の根絶を目指して  
11月12日から25日までの「女性に対する暴力をなくす運動」期間にあわせて、11月の1カ月間、市役所正面玄関と市立図書館に「パープルリボン」を設置しました。「パープルリボン」運動は、DV(配偶者等からの暴力)をはじめとする「女性に対する暴力の根絶」をめざして、平成6年にアメリカで生まれたもので、パープルリボンには「あなたはひとりではないよ」という意味が込められています。この運動は、パープルリボンを身につけることで暴力根絶の意思表示ができ、日本を含む世界40カ国以上でさまざまな取り組みが行われています。

本市でも、多くの人にDVについて正しく知ってもらい、DV問題について考えてもらうため、平成24年度から市役所内にパープルリボンツリーやDVに関するパネルなどを設置し、暴力の根絶を呼びかけています。今年度はさらに多くの方に向けてもらうため、市立図書館と連携し、市立図書館のエントランスにもパープルリボンツリーを設置しました。ツリーの横にはDVや男女共同参画に関する本や絵本を展示したり、図書館ボランティアの子どもたちが作ったDVの概要・相談機関が記載されたしおりを配置しました。子どもたちは、ツリーの飾りつけやしおり作りをとおして、DVについての理解を深め、また、周知活動にも協力してくれました。

## 相談機関・電話番号

市家庭児童相談室  
TEL72-1111(内線127)  
南薩地域振興局地域保健福祉課  
TEL53-8001  
県男女共同参画センター  
TEL099-221-6630  
県女性相談センター  
TEL099-222-1467  
枕崎警察署  
TEL72-0110  
県警察本部総合相談電話  
#9110

先月号でも掲載したように、DVは決して他人事ではなく、身近に起きている問題です。「女性に対する暴力をなくす運動」期間だけではなく、日頃から私たち一人ひとりがDVなどに関心を持ち、正しく理解することが大切です。そして、それを周囲の人に伝えていき、みんなで暴力のない社会づくりを進めていきましょう。

■DV相談機関  
ささいなことでもDVなどで不安を感じている場合には、ひとりで悩まずに、相談機関に相談してください。また、周りで悩んでいる方がいる場合には声をかけて、相談機関があることを伝えてください。あなたの一言で救われる方がいます。相談は無料で、秘密は守られます。



地域おこし協力隊 活動レポート

## こしたこづ ひとっもんど!

こんにちは! 地域おこし協力隊員の前永です!  
11月3日に市民会館で市総合文化祭が開催され、田布川郷土芸能保存会が田布川棒踊りを披露しました。  
自分も踊ることになり1カ月前から練習を始めたのですが、難しい動きが多く、とても苦勞しました。保存会の方々の熱心な指導のおかげで、当日は無事踊ることができました。

文化祭での披露の後は、神社奉納と集落の皆さんの前で披露させていただきました。この日はコスモス祭りや、延期となった敬老会も兼ねたイベントで、多くの方が集まり、数年ぶりの棒踊りの披露を喜んでいただきました。

今回、集落外に住む方々も参加していただき、少子高齢化の進む現在、出身地にこだわらず郷土芸能に対して関心のある人も加わって伝統を継承していくことも大事な手段であると感じました。

前永俊輔 隊員  
今月の報告は